

# 碧空

あ お ぞ ら

No.134  
2007.4.1

contents	* 図書館がリニューアルオープン! ……………	1
	* KIT-R公開のお知らせ ……………	4
	* トピックス ……………	6
	* 教職員寄贈著書 ……………	7
	* 貸出ベスト50 ……………	8



## 図書館が リニューアル オープン!

図書館の増築改修工事が行われ平成19年3月9日に竣工しました。リニューアルされた図書館は、従来の図書館のイメージを超えて「学ぶ・集う・リフレッシュ」をキーコンセプトに学生、教職員、市民のコミュニケーションの場として、さらには産学官連携など知の拠点として、その機能を果たすべく生まれ変わりました。新たに誕生した図書館の施設とその機能について紹介します。



ガラス張りの近代的な図書館外観

## 増築改修の概要

平成19年3月9日に図書館増築改修工事の引渡しが行われ同月14日にオープンしました。今回増築改修されたのは2階建て図書館(従来の延べ面積2,375㎡)のうち1階部分で、増築面積は508㎡(合計延べ面積2,883㎡)、改修面積は335㎡です。その主要な施設の内部を次頁に掲載しています。図書館の増築改修は、大学の中期計画に盛り込まれ大学全体の施設整備計画の一環として行われたものです。

図書館増築改修の全体計画は3期から成り、第1期は従来の図書館機能に新たな施設・機能の追加、第2期は既存の施設を機能的な空間に変える、第3期は資料保存スペースの拡充が主な目的となっており、今回はその第1期分です。

新たに増築された部分は大学の正門から入って正面に位置し、ガラス張りで明るく開放的な近代的な外観を誇っています。従来は回り込む方角にあった玄関も正門側に移設され入館への動線がスムーズになりました。同時期に改修が行われていた隣接する1号館も完成し、ともに統一された外観で大学の雰囲気が一新しました。

## 図書館の新たな機能

図書館では、教育研究を支援する学術情報基盤として、印刷媒体の学術資料を収集・整理・保存し利用者に提供すること及び学習の場を提供するなどの基本機能に、電子ジャーナルの整備や文献情報データベース、インターネット利用環境など電子図書館機能をプラスしたハイブリット図書館機能の充実に努めてまいりました。さらに今回の増築改修を機に、従来からの機能拡充に加えて新たな機能を提供し知の拠点として進化してまいります。

### ●学習・教育支援機能

学生の自主的な学習を支援するため、自由に利用できる快適空間を拡大します。多目的室の設置やグループ学習室の増設、静かに学習するためのサイレントルームを設けるなど、目的別に区分けし、学生を始めとする利用者の多様なニーズに答える環境を整えます。さらに、24時間開館を実現するための整備を行ってまいります。

### ●コミュニケーション機能

広いコミュニケーションホールには、学生同士はもとより、教職員、市民の交流の場として利用できるよう様々な設備を用意しております。飲食しながら談笑できるスペース、飲み物の自動販売機、インターネットが利用できる情報コ

ンセントなどを備え、長時間居ても快適で楽しい学びの場として滞在型の図書館となります。特に学生の皆さんには充実したキャンパス・ライフを送って頂けるよう意見を聞きながら活用していきたいと考えています。

### ●地域社会貢献・産学官連携機能

とかく敷居が高いと言われる大学に一般市民の方が気軽に足を運んで頂ける場でありたいと思っています。本学の研究成果を市民の方にも良く分かるように、さらには企業等にもアピールするための展示スペースを設けるなど、産学官連携の推進をサポートする活動を行い、オホーツク圏における教育研究の交流の場として機能することを目指しております。

## 今後の展開について

今回の増築改修に続き、平成19年度には「フュージョンセンター改修(第1講義棟・図書館)」として図書館の未改修部分の全部を改修(第2期分)することが予定されております。このため平成18年度に増築改修された空間は暫定的な利用とし、改修工事が開始される予定の8月頃からは、この施設に書架・閲覧机を配置して図書館機能を果たすこととなります。利用面積が大幅に縮小され制限されたサービスとなりますが引き続きご理解とご協力をお願いします。

全面改修が済みますと、新たな機能を持つ図書館としての本格オープンとなり、前項で述べた機能を発揮し大学の活性化、地域などへ大いに貢献できるものと信じております。さらに、隣接する教育棟の改修と一体化し本学の一大パブリックセンターとなります。

このように増築改修され新たな時代にふさわしい図書館を造ることができましたのは、ひとえに関係各位のご尽力によるものです。ここに感謝の意を表し厚くお礼申し上げます。



## 増築改修された図書館の新たな知的空間



コミュニケーションホール

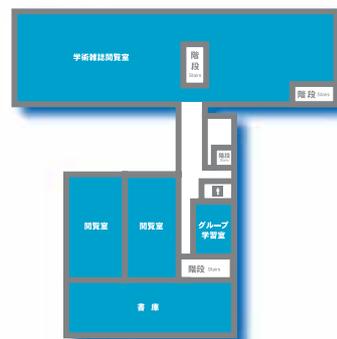


多目的室

1F



2F



- ・地域学生コミュニケーションホール
- ・産学官連携展示スペース



玄関ホール



## キット アール KIT-R 公開のお知らせ

平成19年度の早い時期に、世界へ向けて学内の教育・研究成果を公開するシステム「北見工業大学学術機関リポジトリ(Kitami Institute of Technology Repository 略称KIT-R)」のサービスを開始する運びとなりましたのでお知らせします。

<http://kitir.lib.kitami-it.ac.jp>

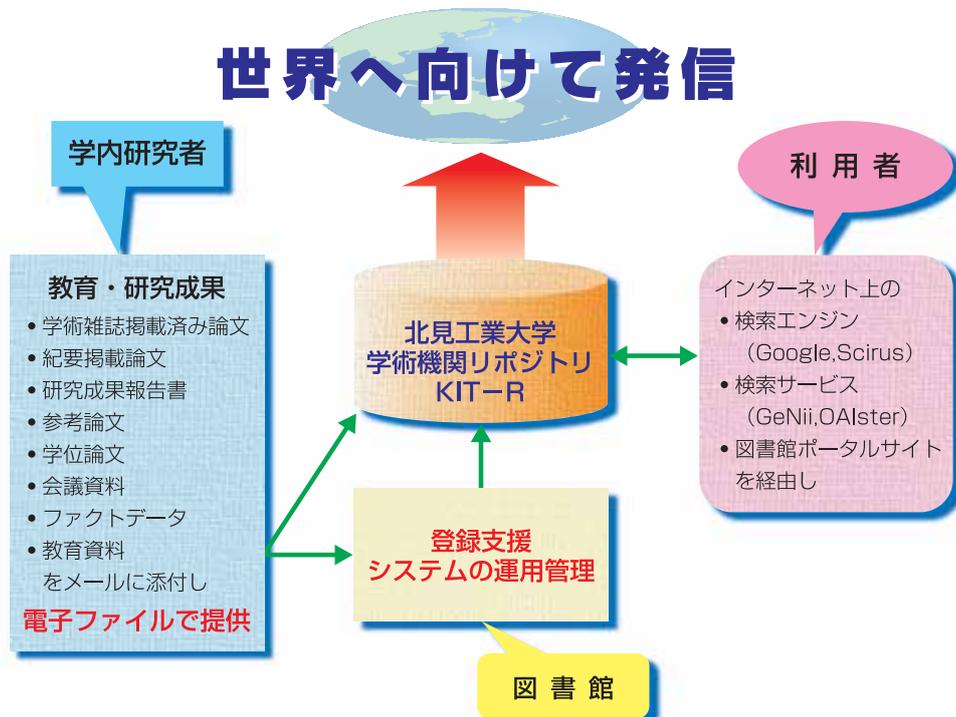
(平成19年6月本公開予定)



### 機関リポジトリとは

「機関リポジトリ」とは、インターネット接続された専用サーバに学術論文等のファイルを溜め込み(保管)なおかつ検索されやすいよう整理し、インターネット上に発信(無償公開)するための仕組みです。大学や研究機関などで生産される学術情報を、それぞれの「機関ごと」で収集・保管し、それらが世界のどこからでもインターネットで検索できるように、世界共通のルールに則り整理・発信しようというものです。

機関リポジトリの概念図



## 機関リポジトリの現状

すでに海外では、多くの大学でリポジトリが構築されており、国内でも北海道大学、東京大学、千葉大学、東京学芸大学、名古屋大学、九州大学などの図書館が先行して取り組んでいます。国立情報学研究所(NII)は、最先端学術情報基盤(CSI)整備事業の一環として、これを全国の学術機関に拡げるために、平成18年度に3億円の予算を確保し、昨年4月に各大学に対しリポジトリ構築を呼びかけました。本学もこれに応募したところ、幸い採択されました。現在、この事業計画に沿って、委託業者によるコンテンツ登録業務が進行中です(平成19年3月時点)。

## 機関リポジトリのメリット

### 教員の皆様にとっては

教育・研究成果の可視性(visibility)が向上することによって、教育・研究成果へのアクセス回数の増加が期待できます。この結果、個々の論文の引用回数の増加による影響力(impact)の向上、ひいては、国際的な学術交流に寄与することが期待されています。また、教育・研究成果を大学が管理するサーバに保存することにより、散逸の恐れなく、恒久的に保存することが可能となります。

### 大学にとっては

従来、研究者毎に個別に発信されていた教育・研究成果を、大学としてまとめて収集・発信し、大学の教育・研究成果が誰の目にも一目で分かる状況にすることにより、大学としての説明責任(accountability)を果たすことが期待できます。また、大学総体としての教育・研究成果の管理・発信・保管コストの削減も期待できます。将来的には研究業績データベースと連携し、研究成果を容易に一覧できるシステムの構築も視野に入れています。

### 利用者にとっては

オープンアクセス(無償公開)によって、誰もが研究・教育成果に容易にアクセスができるようになり、個々の研究者の研究内容、ひいては、大学全体の教育・研究成果の総体を効率的に把握することが可能となります。これにより例えば、国内外の研究機関・企業・自治体などさまざまな組織・機関に所属する利用者にとっては新たな連携の機会が、本学へ入学を希望する学生あるいは社会人の利用者にとっては志望動機としての教育・研究内容を知る機会が得られることが期待されます。

## 当館 情報図書課 のこれまでの取り組み

当館では、リポジトリ構築に向け、昨年10月に図書館委員会の下にタスクフォースを立ち上げ、運営指針案やコンテンツ収集方針の策定など、運営にかかる諸課題について議論を重ねてきました。この結果を受けて、リポジトリ導入当初の収集対象として、紀要論文(北見工業大学研究報告)と学術雑誌掲載済み論文(研究業績から抽出)の合計約850件の論文コンテンツを登録し公開することになりました。この登録にかかる作業は前述のとおり、国立情報学研究所のCSI事業による外部資金を活用して行われています。平成19年度につきましては、研究業績の中から学術雑誌掲載論文に加えて、参考論文、会議・講演資料、教育資料の登録作業を進める計画です。

なお、機関リポジトリのシステムについては、従来の図書館システムに含めて、5年レンタルで既に調達済みです。

## おわりに

機関リポジトリが既存メディアに拮抗するほど浸透し、業績評価の対象となり得る所にまで認知されるには、まだ時間がかかるものと考えられますが、機関リポジトリの構築は、学術コミュニケーションの進展を促すための最も現実的な打開策として、国立情報学研究所が先導し、国策として取り組んでいる事業の一つであり、大学図書館が主体となって取り組まなければならない課題です。

大学図書館は従来、主に大学の外にある情報を収集・整理し、学内に向けて提供する役割に専心しておりましたが、今後は機関リポジトリというシステムを用いて、学内の情報を収集・整理し、外に向けて発信する役割を同時に担うことになります。この意味で現在、大学図書館は大きな転換期にあり、本学でもこの波に乗り遅れないよう、機関リポジトリの早期立ち上げを目指してきたところです。

将来的に機関リポジトリの成功の鍵を握るのは、現在の教育・研究成果を継続的に公開していく仕組みを、如何にして作るかにかかっています。機関リポジトリの導入当初は、過去の教育・研究成果の蓄積が中心となりますが、その後は「現在の」教育・研究成果を継続的に収集し公開していくことが求められます。このためには、教員の皆様のご協力が不可欠です。図書館としましては、今後も可能な限り、皆様の負担とならない方法を模索してまいりますので、論文ファイルの提供に際しましては、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

## トピックス

### 図書館の名称が変わりました

平成19(2007)年4月1日から附属図書館は図書館へと名称が変わりました。これは今回の増築・改修をきっかけとして、利用者の皆様により親しんでもらえる図書館を目指し、簡略な名称を使用することにしたものです。まさに大学の中心に位置する施設としての図書館となるように頑張っていきますので、よろしくお願ひします。



### ACSの電子ジャーナルが利用可能になりました

アメリカ化学会(American Chemical Society、略称ACS)が発行する電子ジャーナル中の24タイトルが平成19(2007)年1月から利用できるようになりました。これは、化学システム工学科・機能材料工学科の全教員、及び各センター所属の有志の教員で経費を負担して電子ジャーナルを共同購入することになったものです。

経費負担者以外も閲覧できますが、利用の多い方は共同購入という趣旨に賛同の上で来年度以降新たに購入者に加わっていただければ幸いです。

### 電子ジャーナル利用説明会を開催しました

電子ジャーナルを初めて使う方や今までほとんど使ったことがない方を対象とした利用説明会を平成18(2006)年10月から11月にかけて開催しました。平成19(2007)年度からは毎年2回(春と秋)に開催予定ですので、ご指導の院生・学生等に参加を促していただければ幸いです。

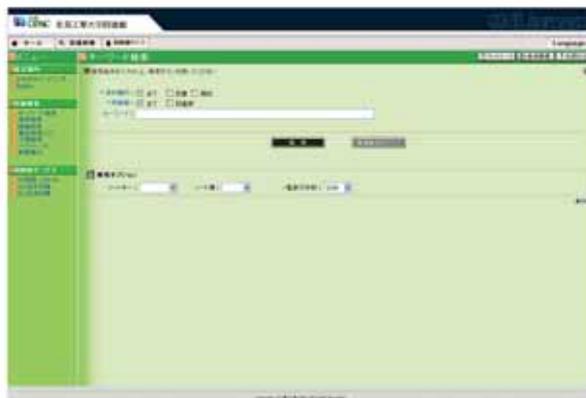
図書館では電子ジャーナル利用説明会の他に文献情報データベースJDreamIIの利用説明会も開催しています。また今後は更に説明会の種類を順次増やし充実させていく予定です。

### 図書館情報システムが新しくなりました

平成19(2007)年3月に図書館情報システムを更新しました。

いままでのシステムは、平成14(2002)年に導入され、稼動後すでに5年が経過しましたが、その間、コンピュータの著しい性能の向上とインターネット利用技術の進歩がみられ、教育・研究に必要な学術情報の入手に関しても、より高度なサービスの実現が可能となりました。そこで新しいシステムを導入して、図書館業務の効率化、及び利用者サービスの向上を図ることにしました。

新しいシステムとなって処理能力が向上したのはもちろんですが、更に、機関リポジトリの導入、利用者の個人情報保護の強化、蔵書目録の多言語対応等の機能が加わりました。



### サービスカウンターがリニューアルされました

図書館の顔ともいべきサービスカウンターが平成19(2007)年5月に新しくなりました。長年使われてきた二段式の背の高いカウンターに替えて一段式の低層カウンターとなったことにより、利用者の皆様・図書館職員のどちらからも見通しが良くなりました。広々として明るい雰囲気を出すとともに、作業効率が向上して、より迅速・的確な対応ができるようになりました。



### 理科年表・現行法規の検索がインターネット版へ移行しました

図書館では以前からCD-ROMサーバにより理科年表と現行法規の検索サービスを提供してきました。これらのサービスが平成19(2007)年度からインターネット版へ移行しました。これにより従来は利用者側で行わなければならないパソコンの初期設定(検索プログラムのダウンロード等)が不要になり、より使いやすくなりました。また、出版社で行われるデータ更新が即座に反映されるようになり、常に最新のデータを提供できるようになりました。

インターネット版への移行にともない、CD-ROMサーバの運用を平成19(2007)年4月末で終了させていただきます。今までご利用いただき、ありがとうございました。

なお、ライセンスの関係でネットワークからの利用ができないCD-ROM( JCR・化学便覧 )につきましては、今後とも図書館閲覧室の専用端末からご利用ください。

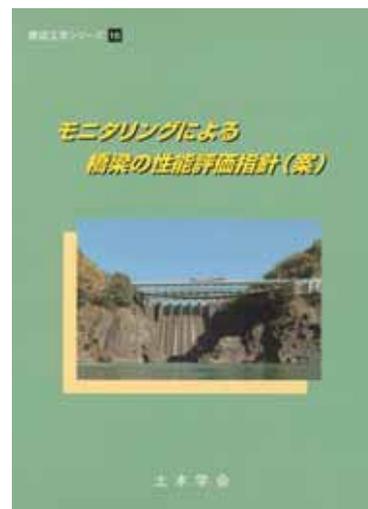
## 教職員寄贈著書

ご著書はぜひ1部図書館へご寄贈ください。

以下の著書をご寄贈いただきました。

(敬称略)

大島 俊之(理事・副学長)  
 宮森 保紀(土木開発工学科助教授)  
 大島 俊之、宮森 保紀、他分担執筆  
 土木学会構造工学委員会橋梁振動モニタリングとその  
 標準化小委員会編  
 「モニタリングによる橋梁の性能評価指針(案)」  
 (土木学会,2006.3)



# 貸出ベスト50 (2006年2月~2007年1月)

順位	回数	タイトル	著者	出版社	発行年	冊数	請求記号	指定図書
1	141	TOEICテスト新公式問題集	Educational Testing Service 著	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会	2005	56	830 〃 E21	共通：土橋
2	79	微積分演習：全問精解	北山 毅 ほか 共著	聖文社	1976	22	413.3 〃 K17	
3	46	単位が取れる線形代数ノート	齋藤寛靖著	講談社	2003	5	411.3 〃 SA25	
4	38	やさしく学べる微積分	石村園子著	共立出版	1999	7	413.3 〃 I78	
4	38	やさしく学べる線形代数	石村園子著	共立出版	2000	7	411.3 〃 I78	
4	38	有機化学 第6版 (中)	John McMurry著	東京化学同人	2005	5	437 〃 MA22	
7	36	有機化学 第6版 (上)	John McMurry著	東京化学同人	2005	5	437 〃 MA22	
8	35	構造力学	大島俊之編著	朝倉書店	2002	10	501.34 〃 O77	土木開発：大島
9	33	ゼロから学ぶ線形代数	小島寛之著	講談社	2002	5	411.3 〃 KO39	
10	30	水理学演習	鈴木幸一著	森北出版	1990	9	517.1 〃 SU96	土木開発：早川
11	29	すぐわかる微分方程式	石村園子著	東京図書	1995	7	413.6 〃 I78	
12	25	水理学演習 (上)	樫東一郎 荒木正夫共著	森北出版	1961	12	517.1 〃 SU51	土木開発：佐渡
12	25	Student's solutions manual for physical chemistry 6th ed.	P.W.Atkins著	Oxford University Press	1998	10	431.07 〃 A94	
14	24	有機化学 第6版 (下)	John McMurry著	東京化学同人	2005	5	437 〃 MA22	
15	23	TOEIC公式ガイド&問題集：日本語版 Vol.1	The Chauncey Group International著	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会	2000	13	830.7 〃 TH42	共通：平野
16	22	単位が取れる微積分ノート	馬場敬之著	講談社	2002	2	413.3 〃 B12	
17	21	コンクリート工学：耐久性・寒中コンクリート詳説	林正道 鮎田耕一共著	山海堂	1993	8	511.7 〃 H48	土木開発：鮎田 / 櫻井
18	20	テキスト線形代数	小寺平治著	共立出版	2002	2	411.3 〃 KO21	
18	20	TOEICテストスコアアップの基本：TOEICテスト専門校講師が教える	Alice Chung著	高橋書店	2003	5	830.7 〃 C65	
18	20	微積分学教程	ロバート・アッシュ キャロル・アッシュ共著	森北出版	1988	5	413.3 〃 A92	
21	19	100問演習電磁気学	今崎正秀著	共立出版	1994	9	427.7 〃 I46	電気電子：吉田
21	19	図解でわかるはじめての電子回路	大熊康弘著	技術評論社	2002	2	549.3 〃 O55	
21	19	電気音響工学概論	川村雅恭著	昭晃堂	1971	4	547.3 〃 KA95	
21	19	橋梁工学	林川俊郎著	朝倉書店	2000	8	515 〃 H48	土木開発：宮森
21	19	TOEIC公式ガイド&問題集：日本語版 Vol.2	The Chauncey Group International著	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会	2000	10	830.7 〃 TH42	共通：平野
26	18	構造力学問題集：基礎的な演習問題をランク別に集録 第2版	赤木知之 色部誠共著	森北出版	2002	6	501.34 〃 A29	土木開発：三上
27	17	最新水理学 2	大西外明著	森北出版	1981	7	517.1 〃 O66	
27	17	クイックマスター線形代数 改訂版	小寺平治著	共立出版	1997	2	411.3 〃 KO21	
27	17	線形代数：明解演習	小寺平治著	共立出版	1982	2	411.3 〃 KO21	
30	16	物理化学 第4版 下	P.W.Atkins著	東京化学同人	1993	14	431 〃 A94	
30	16	単位が取れる電磁気学ノート	橋元淳一郎著	講談社	2003	2	427 〃 H38	
30	16	図解による半導体デバイスの基礎	玉井輝雄著	コロナ社	1995	5	549.8 〃 TA77	
30	16	パワーエレクトロニクスの基礎	電気学会編集	電気学会	1993	11	549 〃 D58	電気電子：村田
30	16	化学工学通論 改訂新版 1	正田晴夫著	朝倉書店	1982	2	571 〃 KA16	
30	16	フーリエ解析	H.P.スウ著	森北出版	1979	2	413.51 〃 H97	情報：数学
30	16	誘電体現象論	電気学会通信教育会著	電気学会	1973	4	541.6 〃 D58	
30	16	切削加工 上巻	臼井英治著	共立出版	1971	9	532.5 〃 U95	
30	16	土木材料実験指導書 平成6年基礎編	土木学会編	土木学会	1994	20	511.4 〃 D81	土木開発：櫻井
39	15	Sun Java2認定ガイド：310-035&310-027対応	Kathy Sierra, Bert Bates著	日経BP社	2003	4	007.64 〃 S12	
39	15	ハリー・ポッターと謎のプリンス 下	J.K.ローリング著	静山社	2006	1	933.7 〃 R78	
39	15	ハリー・ポッターと謎のプリンス 上	J.K.ローリング著	静山社	2006	1	933.7 〃 R78	
42	14	微積分：明解演習	小寺平治著	共立出版	1984	3	413.3 〃 KO21	情報：山田
42	14	やさしいC 第2版	高橋麻奈著	ソフトバンクパブリッシング	2003	2	007.64 〃 TA33	
42	14	やさしく学べる基礎数学：線形代数・微積分	石村園子著	共立出版	2001	5	411.3 〃 I78	
42	14	電子回路の講義と演習	杉本泰博 ほか 共著	日新出版	2003	2	549.3 〃 SU38	
42	14	これならわかる電気回路	上坂功一著	日刊工業新聞社	2001	2	541.1 〃 KA38	
42	14	論理回路工学	久津輪敏郎 江端克彦共著	共立出版	1994	2	549.3 〃 KU94	
42	14	物理化学 第4版 上	P.W.Atkins著	東京化学同人	1993	14	431 〃 A94	
42	14	基礎センサ工学	電気学会通信教育会著	電気学会	1990	7	501.22 〃 D58	
42	14	水理学 1	樫東一郎著	森北出版	1973	14	517.1 〃 TS14	土木開発：佐渡
42	14	浄水の技術：安全な飲み水をつくるために	丹保憲仁 小笠原紘一 共著	技報堂出版	1985	19	519.16 〃 TA85	土木開発：海老江
42	14	誰にでも手軽にできる電子工作入門	後関哲也著	技術評論社	2001	3	549 〃 G59	
42	14	一般火薬学 改訂第4版	日本火薬工業会資料編集部編	日本火薬工業会資料編集部	1999	5	575.9 〃 I62	土木開発：森 / 後藤
42	14	絵とき電子回路 改訂2版	福田 穠 ほか 共著	オーム社	1992	3	549.3 〃 F74	